

1章 マスタークラス実施報告

1章 マスタークラス実施報告

1-1 概要

あらゆるスタイルに対応できる技術と柔軟性を養うことを目的として、プロフェッショナルダンサーとしての活躍が期待される若手を対象に、海外優秀指導者によるマスタークラスを実施した。今年度は、2015～2018年度の招へいでダンサーおよび指導者に多大な影響を与えてきたモナコ・プリンセス・グレース・バレエ・アカデミー教師のローラン・フォーゲル氏、並びにサンフランシスコ・バレエ・スクール校長のパトリック・アルマン氏を継続して招へいするとともに、バレエ指導者として世界的に評価が高いパリ・オペラ座バレエ団教師のアンドレイ・クレム氏を加え、3名の講師を招へいし、日本バレエ団連盟会員団体での指導を依頼した。また、その成果を、ダンサー育成環境の開発と整備の一助とすべく、将来プロを目指す若手ダンサーとその指導者に対して公開した。

1-2 ローラン・フォーゲル氏によるマスタークラス・公開レッスン

講師紹介

ローラン・フォーゲル Roland Vogel

ジョン・クランコ・バレエ・スクールで学び、シュツットガルト・バレエ団に入団。

『白鳥の湖』、『眠れる森の美女』、『ラ・バヤデール』などの古典バレエに主演、ジョン・クランコの『オネーギン』、『じゃじゃ馬馴らし』などの物語バレエをはじめ多くの作品を踊り、ダンサーとしてのキャリアの最後までシュツットガルト・バレエ団で活躍した。20世紀を代表する世界的振付家の数多くの作品に主演するとともに、J・ノイマイヤー、U・ショルツ、D・ビントリーらの新作の初



演キャストも務めている。

1998年の長野冬季オリンピック大会の開会式でU・ショルツ振付『若い男』のパ・ド・ドゥを踊り、1999年には『オネーギン』のタイトルロールでブノワ賞にノミネートされた。

1999年から2001年にヴェルテンベルク州立歌劇場の教育訓練プログラムに参加、ジョン・クランコ・スクールでクラシック・バレエ教師の資格を取得した。ダンサーとしてのキャリアを終えると直ちに教師に転じ、マリカ・ヴェゾブラゾヴァに招かれモナコのプリンセス・グレース・バレエ・アカデミーの教師陣に加わる。以来、現在のディレクターであるルカ・マサラの下でダンサーの育成にあたり、スクールのために多くの作品を振り付けている。

カンヌ・ロゼラ・ハイタワー・のゲスト教師のほか、中国、日本では様々なスクールにおいてワークショップ指導を行っている。北京の中国国立バレエ団にはゲスト教師として定期的に招かれ、クランコの『オネーギン』、『ロメオとジュリエット』、U・ショルツの『第七交響曲』、『白鳥の湖』などを指導した。

東京のNBAバレエ団のコンクール審査委員会メンバー、ニューヨークのユース・アメリカ・グランプリの審査員を務め、2011年の第一回北京国際バレエ・コンクールにはゲスト教師として招かれた。2014年に振り付けた『オーゲンブリック』パ・ド・ドゥは、北京舞踏学院60周年記念のオープニングで踊られ、モンテカルロ・バレエ団の協力を得てプリンセス・グレース・アカデミーでも上演された。

● マスタークラス実施概要

対 象：5月13日（月）～17日（金）：東京バレエ団

5月20日（月）～24日（金）：牧阿佐美バレエ団

※期間中、1日あたり2クラスのマスタークラスを実施。

指 導：ローラン・フォーゲル

<マスタークラス指導の様子>



(東京バレエ団)



(牧阿佐美バレエ団)

● 公開レッスン実施概要

日 時：5月25日（土）10:30～12:30

会 場：牧阿佐美バレエ団スタジオ（東京都中野区中野）

指 導：ローラン・フォーゲル

実 技：牧阿佐美バレエ団ダンサー 24名

見学者：35名（バレエ指導者14名、学習者21名）

<公開レッスンの様子>



©Takashi Shikama

参加者の声 ～抜粋～

- 音の取り方やムーブメントの伝え方が大変美しく、参考になった。(指導者)
- 丁寧なお手本、ユーモアを交えた情熱的なご指導に引き込まれた。言葉を越えたものを感じた。(指導者)
- クラス全体の組み立て方や、音楽性のあるアンシェヌマンが大変参考になった。(指導者)
- 上体の使い方、音楽性、アクセントなど、日本のダンサーに足りないと言われている点を改めて認識できた。日々のレッスンから、舞台上での表現をより意識していきたい。(学習者)
- コミュニケーションや、音楽とともに観客にエネルギーを伝えることをもっと意識していきたいと思った。(学習者)
- 上体の使い方やアームスのコーディネーションについて、細かく指導されていたことが印象に残った。(学習者)
- 普段のクラスでは分からなかったことが、どうすれば改善できるか分かり、とても貴重な機会だった。(学習者)

1-3 アンドレイ・クレム氏によるマスタークラス・公開レッスン

講師紹介

アンドレイ・クレム Andrey Klemm

1967年、モスクワ出身。ボリショイバレエアカデミーを卒業後、1985年モスクワクラシックバレエに入団し、ソリストとして活躍する。

その後、ドイツへ渡り、ボン州立バレエ、ベルリン国立バレエのソリストを務める。

ロシア国立舞台芸術大学（GITIS）にてロシア連邦国家舞踊教師資格を取得。またアメリカの大学でも教授法を学ぶ。ベルリン国立バレエのバレエマスターを経て、2007年よりパリ・オペラ座バレエ団の教師となる。



© Maria-Helena Buckley

現在、英国ロイヤルバレエ、オランダ国立バレエに定期的にゲストティーチャーとして招かれ、世界中で精力的に指導を行い、また多数のDVDプロデュースを行っている。

日本バレエ団連盟の会員団体への指導は本事業での招へいがはじめてである。

これまでの指導実績に対する世界的な評価に加え、2019年「世界バレエフェスティバル」の出演者たちへのクラスレッスンを受け持つゲストティーチャーとして来日していた際の評判をふまえ、招へいした。

● マスタークラス実施概要

対 象：8月6日（火）～10日（土）：貞松・浜田バレエ団

8月12日（月）～16日（金）：東京シティ・バレエ団

※期間中、1日あたり2クラスのマスタークラスを実施。

指 導：アンドレイ・クレム

<マスタークラス指導の様子>



(貞松・浜田バレエ団)



(東京シティ・バレエ団)

● 公開レッスン実施概要

日 時：8月17日（土）10:30～12:30

会 場：東京シティ・バレエ団 大島スタジオ（東京都江東区北砂）

指 導：アンドレイ・クレム

実 技：東京シティ・バレエ団ダンサー 24名

見学者：21名（バレエ指導者11名、学習者10名）

<公開レッスンの様子>



©Takashi Shikama

参加者の声 ～抜粋～

- 指導内容は、日々子どもたちに伝えていることと同じことであったが、徹底的に「正しさ」を伝えていかなければならないのだと感じた。(指導者)
- アンシェヌマンの組み立て方がとても勉強になった。(指導者)
- 学習者の身体に触れ、正しい方向に促すタイミングが絶妙で、大変参考になった。(指導者)
- 目的に対してのエクササイズが明確で、とても効果的だと思った。(指導者)
- 正しいポジションを身体に入れることの重要性を改めて強く感じる事ができた。(学習者)
- 身体の方角の意識、足の裏を使うこと、首の動かし方などにもっと注意して、今後のレッスンに臨みたいと思った。(学習者)

1-4 パトリック・アルマン氏によるマスタークラス・公開レッスン

講師紹介

パトリック・アルマン Patric Armand

マルセイユ生まれのパトリック・アルマンは、ルディ・ブライアンズと母のコレット・アルマンに教えを受け、マルセイユ・バレエ学校で学んだ。1980年にローザンヌ賞を獲得し、引き続きスクール・オブ・アメリカン・バレエとカンヌの国際ダンス・センターで研鑽を積んだ。1981年にフランス・バレエ・シアターに入団、1983年にプリンシパル・ダンサーに昇格。同年、ルドルフ・ヌレエフ共演によるベジャールの「さすらう若者の歌」でローレンス・オリヴィエ賞にノミネートされた。1984年、ペーター・シャウフスの招きでロンドン・フェスティバル・バレエ（現イングリッシュ・ナショナル・バレエ）に入団し、ブ



©ChrisHardy

ルース・マークス監督の下、1990年にボストン・バレエに移籍するまで6年間、同団で踊った。

レパートリーには、アシュトン、バランシン、クランコ、マクミラン、プティ、テトリー、ファン＝マーネンによる振付作品の主役が多数含まれる。中でも、1988年にロンドン・フェスティバル・バレエが世界初演したナタリア・マカロヴァ版の「白鳥の湖」で、ジークフリートを演じたことは特筆に値する。イギリスの雑誌「ダンス・アンド・ダンサーズ」の投票により、彼は同年の年間ベスト・ダンサーに選出された。また、ボーボット、ブルース、サープ、ウィールドン等の振付家が彼のために作品を創作している。ゲスト・アーティストとしては、オーストラリア・バレエ団、バイエルン国立バレエ、ベルリン・ドイツ・オペラ・バレエ団、キーロフ・バレエ、小林紀子バレエ・シアターに出演している。2002年、マルセイユのコレット・アルマン・バレエ・スタジオの監督を引き継いだ。ゲスト教師としては、アムステルダム、フィレンツェ、ロンドン、ナポリ、東京、トロントのバレエ学校やバレエ団でたびたび教えている。

2003年、東京の新国立劇場において、小林紀子バレエ・シアターのために「ライモンダ」第3幕の共同演出を行った。2006年、ミラノ・スカラ座の教師及びバレエ・マスターに任命された。また、ザグレブのクロアチア国立劇場のために「ドン・キホーテ」のプロダクションを振り付け、2010年6月に初演された。

1998年から2009年までローザンヌ・バレエ・コンクールの審査員を務め、2010年からは同コンクールの公式男性コーチ及び教師を務めている。2010年にサンフランシスコ・バレエ学校研修生プログラムのトップに任命され、2012年9月1日に同校の副校長に就任。名誉座長を務めた2017年のスチューデント・ショーケース・ディナーにおいて、同校の校長に指名された。

● マスタークラス実施概要

対 象：11月18日（月）～22日（金）：井上バレエ団
11月25日（月）～29日（土）：小林紀子バレエ・シアター
※期間中、1日あたり2クラスのマスタークラスを実施。
指 導：パトリック・アルマン

<マスタークラス指導の様子>



(井上バレエ団)



(小林紀子バレエ・シアター)

● 公開レッスン実施概要

日 時：11月30日（土）13:00～15:00

会 場：小林紀子バレエ・シアター スタジオ（東京都豊島区目白）

指 導：パトリック・アルマン

実 技：小林紀子バレエ・シアターダンサー 25名

見学者：55名（バレエ指導者25名、学習者30名）

<公開レッスンの様子>



© Kenichi Tomohiro

参加者の声 ～抜粋～

- バレエにおいて絶対的に守る必要がある基本について、ダンサーに繰り返し伝え、変化が見えるところまで持っていく姿勢に感銘を受けた。(指導者)
- 身体全体のポジションを常に考えて、熱意をもって明確に指導しなければならないと思った。(指導者)
- 音楽の使い方、全身のコーディネーション、アンシェヌマンの組み方などが大変参考になった。(指導者)
- 「この場にいることを楽しんで」という先生の言葉が印象に残った。生きていることへの感謝・喜びなど、踊る以前に大切なことがあることに気づかされた。私も生徒たちに伝えていきたい。(指導者)
- 「名前のないステップをしてはいけない」「バレエはムーブメント」「バレエは常に勉強」という先生の言葉が印象に残った。(学習者)
- 1つ1つの動きを正確にすることの大切さを理解できた。(学習者)
- 首の動かし方や、全身の連動をより意識して今後のレッスンに臨みたいと思った。(学習者)
- ただステップをするのではなく、表現・踊りにすることの大切さを理解できた。(学習者)
- 先生の指導を受け、動きを修正し、よりよく変化していくプロのダンサーを近くで見ることができて、とても参考になった。(学習者)